

第2学年 単元別学習内容一覧

上巻

◎ 算数の とびら (算数の 学しゅうの すすめ方)				
小単元	時	ページ	学習内容	
	1	4~8	○100までの数の(何十何)±(何十)の計算の仕方を考える学習を通して、自分で考えるときの方法や説明の仕方、話し合いのやり方等算数学習の進め方を知る。 ○自分で考え、みんなで話し合う算数学習の進め方のよさに気づく。	

1 ひょうと グラフ				
目 標				指導時数・時期
○身のまわりの数量について、表やグラフを用いた分類・整理の仕方を理解し、それをもとに事象の特徴を考えたり説明したりすることを通して、統計的に問題解決する素地を育むとともにその方法を生活や学習に活用しようとする態度を養う。				4時間 2学期制：4月上旬～4月中旬 3学期制：4月上旬～4月中
評 価				
(知) ・身のまわりの事柄について、簡単な分類・整理の仕方を理解し、表やグラフに表したり、それをよんだりすることができる。 (思) ・身のまわりの事柄について、表やグラフを用いてその特徴を考えている。 (態) ・身のまわりの事柄を調べることに進んで関わり、ふり返りを通して表やグラフに整理することで特徴がとらえやすくなるよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。				
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース
じゅんび	—	122	・1年「かずしらべ」	○既習事項の理解を確かめる。
課題設定	1	10~12	◆10、11ページの絵を見て、好きな遊びの種類を確認する。 ◆好きな遊びの場面を、カードに置き換えられることを確認する。	○好きな遊びの調べ方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。
	2	13	◆黒板上でカードを整理し、数を捉えやすく整理する。 ◆●グラフのかき方の例示や●の薄書き等で、数と●を整合させる。	○表や●グラフについて知る。 ○表や●グラフを用いて、分類・整理したり、そこから事柄の特徴を考えたりする。
	3	14~15	◆第2時と同様、カードを準備し、「本をよんだ人」「よんだ本のしゅるい」でカードを並べ替え、数を捉えやすく整理する	○調べたい観点を決めて、表や●グラフに整理する。 ○データが同じでも観点が違えば、表や●グラフからわかることが違うことを確認する。
	4	16~17	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。
				★p.124「もつとれんしゅう」の問2に進む。 ★p.16を行い、既習内容の確認をする。 ★自分たちで考えたテーマで、アンケートを行い、生のデータで分類整理する準備をする。 ★自分たちで考えたテーマの生のデータを使って、観点を決めて、表やグラフに整理し、考察する。 ★「やってみよう」に取り組む。

2 たし算と ひき算				
目 標				指導時数・時期
○2位数の加減計算について、(2位数)±(1位数)の暗算の仕方を考えたり説明したりすることを通して、簡単な加減計算を暗算でできるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				5時間 2学期制：4月中旬 3学期制：4月中旬
評 価				
(知) ・(2位数)±(1位数)の暗算の仕方を理解し、その計算を暗算ですることができる。 (思) ・既習の1位数の基本的なたし算やひき算をもとに、簡単なたし算とひき算の計算の仕方を考え、説明している。 (態) ・簡単なたし算とひき算の計算に進んで関わり、ふり返りを通して何十のまとまりに目をつけると暗算で処理できるよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。				
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース
じゅんび	—	122	◆1年「たしざん」「ひきざん」「10より大きいかず」を振り返る。	○既習事項の理解を確かめる。
課題設定	1	18	◆導入で、17+2を半具体物の操作と式、ことばを対応させて計算の仕方を確認する。	○既習の17+2の計算をもとに、17+3の計算をするという課題をつかむ。
1 たし算		19	◆17+3を17+2との違いを比べながら、半具体物の操作と式、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。 ◆問3の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問題は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○暗算の仕方を考え、(何十)+(何)で和が何十になる暗算をする。 ○17+3のような計算の仕方を考えていく学習計画を立てる。
				★数のまとまりに着目して、(何十)+(何)で繰り上がって何十何になる暗算をする学習の(次時の)計画を立てる。

	2	20～21	<p>◆17+4を17+3との違いを比べながら、半具体物の操作と式、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。</p> <p>◆問9の①や問10の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)</p>	<p>○17+4の計算の仕方について考え、数のまとまりに着目して、(何十)+(何)で繰り上がって何十何になる暗算をする。</p>	<p>★17+4の計算の仕方について、図と式、ことばを対応させて、計算の仕方を説明する。</p> <p>★p.125「もつとれんしゅう」の問4に進む。</p>
課題設定	3	22	<p>◆導入で、19-8を半具体物の操作と式、ことばを対応させて計算の仕方を確認する。</p> <p>◆20-8を19-8との違いを比べながら、半具体物の操作と式、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。</p> <p>◆問3の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)</p>	<p>○既習の19-8の計算をもとに、20-8の計算をするという課題をつかむ。</p> <p>○暗算の仕方を考え、(何十)-(何)で差が何十何になる暗算をする。</p>	<p>★数のまとまりに着目して、(何十)-(何)で繰り下がって何十何になる暗算をする学習の(次時の)計画を立てる。</p>
2 ひき算	23				
	4	24～25	<p>◆21-8を20-8との違いを比べながら、半具体物の操作と式、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。</p> <p>◆問9の①や問10の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)</p>	<p>○21-8の計算の仕方について考え、数のまとまりに着目して、(何十何)-(何)で繰り下がって何十何になる暗算をする。</p>	<p>★21-8の計算の仕方について、図と式、ことばを対応させて、計算の仕方を説明する。</p> <p>★p.125「もつとれんしゅう」の問6に進む。</p>
学びのまとめ	5	26	<p>◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。</p>	<p>○学習内容の理解を確認する。</p>	<p>★「やってみよう」に取り組む。</p>

3 時ごとと時間

目 標				指導時数・時期	
○時刻や時間について、その意味の違いを理解し、時計を操作する活動を通して時間を求めたり午前・午後を用いて適切に時刻を表現したりすることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				4時間 2学期制：4月下旬 3学期制：4月下旬	
評 価					
(知)・時刻と時間の違い、午前と午後の区別や正午の意味、日・時・分の関係がわかり、時計の針の動きをもとに、時刻や時間を求めることができる。					
(思)・日常生活と関連づけて、時刻や時間について調べたり、午前や午後といった用語を適切に用いて表現したりしている。					
(態)・1日の生活の中にある時刻と時間に進んで関わり、ふり返りを通して時刻や時間を適切にとらえたり、表現したりすることのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	122	◆1年「なんじなんぶん」	○既習事項の理解を確かめる。	→
課題設定	1	27	◆導入で、時計のよみ方を確認する。 ◆時計の模型を活用して学習を進める。	○1日の生活場面の時間を調べることを通して、単元の課題をつかむ。 ○時計の針の動きから簡単な時刻と時間を求めることができる。	★p.125「もつとれんしゅう」の問8に進む。
		28			
	2	29	◆時計の模型を活用して学習を進める。	○1時間が60分であることを知り、簡単な時間や時刻を求めることができる。	
	3	30～31	◆時計の模型を活用して学習を進める。	○午前・午後の区別と正午の意味や1日は24時間であることを知り、午前・午後を使って時刻を表すことができる。	★1日の生活の中から時刻や時間の問題を作り、解きあう。
学びのまとめ	4	32～33	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。

4 長 さ

目 標					指導時数・時期
○ ものの長さについて、その比べ方や普遍単位の必要性を理解し、測定する活動を通してものさしで長さを測ることや単位を適切に用いて表現することができるようにするとともに、量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。					8 時間 2 学期制：5 月上旬～5 月中旬 3 学期制：5 月上旬～5 月中旬
評 価					
(知) ・ものさしの仕組みや使い方、長さの単位「cm」「mm」のよみ方やかき方、単位の関係を理解し、長さ「cm」「mm」の単位を用いて表すことができる。また、ものさしを使って、長さを測定したり直線をかいたりすることができる。 (思) ・長さの普遍単位の必要性に気づいている。また、量感をもとに長さを予想したり適切な単位を判断したりしている。 (態) ・長さの測定や表し方の学習に進んで関わり、ふり返りを通して長さにあわせて適切な普遍単位を使うことや長さの量感を身につけておくことよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	122	◆1年「おおきさくらべ」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	34 35	◆導入では、大きさの異なるものを単位として長さを測ると比べられないことを丁寧に教える。こぶしの絵を用意しておき、それで長さを測った様子を示したり、こぶしの大きさを比べたりするとよい。	○長さの比べ方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。 ○普遍単位の必要性に気づき、1cmのいくつかで長さを表すことができる。	
	2	36～37	◆問3で、ものさしの正しい使い方を丁寧に確認する。	○ものさしで長さを正しく測ることができる。	★身のまわりのいろいろなものの長さを測る。
	3	38～39		○30cm ものさしの目盛りを正しくよむことができる。 ○長さの単位 mm について知り、1mm のいくつかで長さを測定することができる。	★身のまわりのいろいろなものの長さを測る。
	4	40	◆紐を使って、体験的に直線を確認する。	○直線の長さを測ることを通して、cm と mm の単位の関係の理解を深める。	★p.126「もっとれんしゅう」の問9に進む。
	5	41	◆問4は、本時では省き、次時の冒頭で前時の確認問題として扱ってもよい。	○10cm の長さのテープを切り取ることを通して、10cm の量感を身につけることができる。 ○身のまわりの 10cm をこえるものの長さを見当づけたり測ったりする。	★点と点を結んで直線をかき練習をくり返す。
習熟度別を問わず、点を結んだ直線の練習は徹底したい。→長方形の作図に繋がる					
	6	42～43		○ものさしを使った直線のかき方を理解し、示された長さの直線をかきことができる。	
	7	44	◆図や式を示し、単位をそろえて計算することを確認する。	○簡単な長さのたし算やひき算の計算ができる。	★p.126「もっとれんしゅう」の問11に進む。
学びのまとめ	8	45～46	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。

5 たし算と ひき算の ひっ算(1)

目 標					指導時数・時期
○ 2 位数の加減計算について、(2 位数)±(2 位数)の筆算の仕方や答えの確かめ方を考えたり説明したりすることを通して、計算の理解を深め、繰り上がりや繰り下がりのある筆算ができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					11 時間 2 学期制：5 月下旬～6 月上旬 3 学期制：5 月下旬～6 月上旬
評 価					
(知) ・筆算の仕方を理解し、(2 位数)±(2 位数)の筆算を、一の位から順に、繰り上がりや繰り下がりに気をつけて、手際よく計算することができる。 ・加法及び減法に関して成り立つ性質を理解することができる。 (思) ・十進位取り記数法の仕組みをもとに、(2 位数)±(2 位数)の筆算の仕方を考え、説明している。 ・加法及び減法に関して成り立つ性質を使って、計算結果を確かめている。 (態) ・(2 位数)±(2 位数)の筆算に進んで関わり、ふり返りを通して筆算の仕方のよさや計算に関して成り立つ性質、答えの見当づけや確かめの意義に気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんぴ	—	123	◆1年「100 までのかずのけいさん」「大きいかず」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	47	◆半具体物の操作と筆算、ことばを	○(2 位数)+(2 位数)で繰り上がりの	

①たし算	48～49	対応させて計算の仕方の理解をはかる。 ◆問3の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第5時で扱うことも可)	ないたし算を筆算で計算する。 ○筆算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。	
	2 50	◆半具体物の操作と筆算、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。 ◆問5の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第5時で扱うことも可) ※繰り上がりの数を書く場合のかき方は、学年で統一しておく。	○(2位数)+(2位数)で一の位に繰り上がりのある筆算ができる。	★34+28の計算の仕方について、図と式、ことばを対応させて、計算の仕方を説明する。 ★p.126「もつとれんしゅう」の問13に進む。 ※繰り上がりの数を書く場合のかき方は、学年で統一しておく。
	3 51	◆問7の①⑤や問9の①⑤で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第5時で扱うことも可)	○(2位数)+(何十)の場合や繰り上がりで一の位が空位になる場合、桁数のそろっていない場合の筆算ができる。	★筆算の仕方を順序立てて説明する。 ★p.126「もつとれんしゅう」の問14に進む。
	4 52～53	◆教科書のテープ図のコピーを用意し、図を用いて捜査的、視覚的に交換法則が成り立つことを確かめる。	○たし算について、交換法則が成り立つことを知る。 ○交換法則を使って、たし算の答えを確かめることができる。	
●れんしゅう	5 54		○学習内容を確実に身につける。	
②ひき算	6 55	◆半具体物の操作と筆算、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。 ◆問3の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第10時で扱うことも可)	○(2位数)-(2位数)で繰り下がりのない場合の筆算ができる。	
	7 56	◆半具体物の操作と筆算、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。 ◆問5の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第10時で扱うことも可) ※繰り下がりの数を書く場合のかき方は、学年で統一しておく。	○(2位数)-(2位数)で繰り下がりのある場合の筆算ができる。	★p.53-26の計算の仕方について、図と式、ことばを対応させて、計算の仕方を説明する。 ★p.127「もつとれんしゅう」の問16に進む。 ※繰り下がりの数を書く場合のかき方は、学年で統一しておく。
	8 57	◆問7の①⑤や問9の①⑤で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第10時で扱うことも可)	○(2位数)-(2位数)で繰り下がって答が1桁になる場合や(2位数)-(1位数)の筆算ができる。	★筆算の仕方を順序立てて説明する。 ★p.127「もつとれんしゅう」の問17に進む。
	9 58～59	◆教科書のテープ図のコピーを用意し、色を塗らせたり、○を追記したりするなど、線分図の扱いを丁寧に確認する。	○ひき算の答えにひく数をたすとひかれる数になることがわかる。 ○たし算を使って、ひき算の答えを確かめることができる。	★たし算の答えをひき算を使って確かめる方法を考える。
●れんしゅう	10 60		○学習内容を確実に身につける。	
学びのまとめ	11 61～62	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	学習内容
	1	63	○既習事項の確認と持続

思 見方・考え方を ふかめよう 「ほうかご 何する？」

目 標			指導時数・時期		
○ 加法や減法の文章題の解決を通して、数量の関係をテープ図に表して未知数の求め方を考えることができるようにし、また、加法や減法の場面や計算の関係についての理解を深めるとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。			5時間 2学期制：6月中旬 3学期制：6月上旬～6月中旬		
評 価					
(知) ・加法や減法が用いられる場面について理解し、数量の関係を線分図(テープ図)に表すことができる。 (思) ・逆思考を必要とする問題について、数量の関係を線分図(テープ図)に表して考えている。 (態) ・加法や減法が用いられる場面の問題解決に進んで関わり、ふり返りを通して問題場面を線分図(テープ図)に整理して考えることよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	64～65	◆問題文の数量や場面絵とテープ図の1つ1つ対応させながら、段階をおってテープ図をかかせる。 ◆わからない数は□とすることをおさえる。	○数量の関係をテープ図を使って表すことができる。 ○増えた数を求める逆思考の問題をテープ図にかいて考え、解くことができる。	★似たような問題をつくり、図や式で表す。

2	66~67	◆問題文をよんで、まず、わからない数が何かを確認して、それを□とすることをおさえる。 ◆問題文の数量と1つ1つ対応させながら、ていねいに段階をおってテープ図をかかせる。	○数量の関係をテープ図を使って表すことができる。 ○減った数を求める逆思考の問題をテープ図をもとに考え、解くことができる。	★似たような問題をつくり、図や式で表す。
3	68	◆問題文をよんで、まず、わからない数が何かを確認して、それを□とすることをおさえる。 ◆問題文の数量と1つ1つ対応させながら、ていねいに段階をおってテープ図をかかせる。	○テープ図を問題解決に進んで用いようとする。 ○増える前の数を求める逆思考の問題を、テープ図をもとに考え、解くことができる。	★似たような問題をつくり、図や式で表す。
4	69	◆問題文をよんで、まず、わからない数が何かを確認して、それを□とすることをおさえる。 ◆問題文の数量と1つ1つ対応させながら、ていねいに段階をおってテープ図をかかせる。	○テープ図を問題解決に進んで用いようとする。 ○減る前の数を求める逆思考の問題を、テープ図にかいて考え、解くことができる。	★似たような問題をつくり、図や式で表す。
5	70~71	◆問題文をよんで、まず、わからない数が何かを確認して、それを□とすることをおさえる。 ◆問題文の数量と1つ1つ対応させながら、ていねいに段階をおってテープ図をかかせる。	○算数の問題をつくり、その問題文にある図や式を考えることができる。	★似たような問題をつくり、図や式で表す。

6 100をこえる数					
目 標					指導時数・時期
○ 100をこえる数について、そのよみ方やかき方を理解し、10や100を単位として数をとらえたり順序や大小、加減計算の仕方を考えたりすることを通して、十進法の理解や数の見方・考え方を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					12時間 2学期制：6月下旬～7月上旬 3学期制：6月中旬～7月上旬
評 価					
(知)・1000までの数の表し方や仕組みを理解し、十進位取り記数法の仕組みをもとにして、1000までの数を表したりよんだりすることができる。また、等号や不等号の使い方を理解することができる。					
(思)・1000までの数について、100までの数と同じように、10や100などを単位としてそのいくつ分とみて表現したり、加減計算の仕方を考えたりしている。また、等号や不等号を用いて大小関係を式に表している。					
(態)・1000までの数と大小の表し方に進んで関わり、ふり返りを通して十進位取り記数法や等号・不等号を用いることのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	123	◆1年「大きいかず」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	72~73	◆問1では、10が10個で100であることや、100が2個で200、100が3個で300、100が4個で400、…、100が9個で900ということを確認する。	○100をこえる数の表し方や仕組みを調べていくという単元の課題をつかむ。 ○10や100のまとまりに着目して、100をこえる数の数え方やよみ方を理解する。	→
①100をこえる数		74			
	2	75	◆問2から問4では、答えや問題の数字のよみ方を確認する。位取り板を用いてもよい。	○3位数について、十進位取り記数法にもとづいて、数字で表したり数の構成を説明したりすることができる。	→
	3	76	◆問7と問8では、答えや問題の数字のよみ方を確認する。位取り板を用いてもよい。	○空位のある3位数について、十進位取り記数法にもとづいて、数字で表したり数の構成を説明したりすることができる。	★教科書のほか、習熟用の問題プリントを用意する。
	4	77	◆問1では、まず、お金の模型を使って、10円玉10枚で100円玉1枚に両替できることをおさえる。	○10を単位として、そのいくつ分になるかを考え、数の相対的な大きさをとらえることができる。	★p.127「もつとれんしゅう」の問19に進む。
	5	78	◆問1では、100、200、300、…、1000と、100とびで数える練習をする。	○100のまとまりをつくって数える操作を通して、1000という数を知り、1000という数の構成や数の系列をとらえることができる。	→
	6	79	◆問5では、数直線を見ながら、10、20、30、…、1000と、10とびで数える練習をする。	○数直線の目盛りの大きさに着目し、1000までの数の系列や順序を理解することができる。	★p.127「もつとれんしゅう」の問20に進む。
	7	80	◆問1では、位取り板を使って数をかき、大きさの比べ方を考えさせる。	○十進位取り記数法の仕組みをもとに考え、3位数の大小を比較することができる。	★3けたの数の構成や相対的な見方の問題をつくり解きあう。 例) p.85の問2や問3
●れんしゅう	8	81		○学習内容を確実に身につける。	★教科書のほか、習熟用の問題プリントを用意する。

②たし算と ひき算	9	82	◆お金の模型を使って、計算させる。 ◆問3の①③で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○10を単位とした数の相対的な見方を働かせて、(何十)+(何十)で答えが(百何十)のたし算やその逆のひき算ができる。	★p.128「もっとれんしゅう」の問21に進む。
	10	83	◆お金の模型を使って、操作をしたり、視覚的に整理したりして、計算させる。	○100を単位とした数の相対的な見方を働かせて、(何百)+(何百)≤1000やその逆のひき算ができる。	
	11	84		○数量の相等関係や大小関係を、等号や不等号を使って式に表すことができる。	
学びのまとめ	12	85～86	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。

7 か さ

目 標					指導時数・時期
○もののかさについて、その比べ方や普遍単位の必要性を理解し、測定する活動を通してまずでかさをはかることや単位を適切に用いて表現することができるようにするとともに、量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。					6時間 2学期制：7月上旬～7月中旬 3学期制：7月上旬～7月中旬
評 価					
(知)・ますの使い方や、かさの単位「L」、「dL」、「mL」のよみ方・かき方・相互関係を理解している。また、かさの加減計算でできる。					
(思)・かさの普遍単位の必要性に気づき、量感をもとにかさを予想したり適切な単位を判断したりしている。					
(態)・かさの測定や表し方の学習に進んで関わり、ふり返りを通してかさにあわせて適切な普遍単位を使うことやかさの量感を身につけておくことよき気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	123	◆1年「おおきさくらべ」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	87	◆導入では、実際に1Lと1.5Lのペットボトルを用意しておき、場面をとらえさせる。	○かさの比べ方を考えることを通して、単元の課題をつかむ。 ○普遍単位の必要性に気づき、1Lますを使ってかさをはかり、1Lのいくつ分でかさを表すことができる。	★長さを想起させ、大きさの違いを数で表すとよいという見通しをもつ。
		88～89			
	2	90	◆問3では、実際に1.5Lの水をペットボトルから1Lますに移す様子を示し、場面をとらえさせる。	○かさの単位dLについて知り、1dLのいくつ分でかさを表すことができる。 ○LとdLの関係を理解する。	
	3	91	◆問3では、実際に340mLの水をペットボトルから1Lますに移す様子を示し、場面をとらえさせる。	○単位mLを知り、mLとdL、mLとLの関係を理解する。	
	4	92		○1Lのかさをいろいろなものに入水を入れてつくり、1Lの量感を身につけることができる。 ○1Lの量感をもとにして、身のまわりのいれもののかさを見当つたり測つたりする。	
	5	93	◆図や式を示し、単位をそろえて計算することを確認する。	○簡単なかさの加減の計算ができる。	★p.128「もっとれんしゅう」の問23に進む。
学びのまとめ	6	94～95	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。

活 買えますか？ 買えませんか？

小単元	時	ページ	学習内容
●買えますか？買えませんか？	1	96～97	○1つ100円で買えるか買えないかの判断をもとに、いくつかの品物が何百円で買えるか買えないかを判断することができる。

活 算数のじゆうけんきゅう

小単元	時	ページ	学習内容
●算数のじゆうけんきゅう	1	98～99	○「線路づくり」といった自由研究に取り組み、見通しをもって考える力や粘り強く取り組む態度を伸ばす。

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	学習内容
	1	100～101	○既習事項の確認と持続

8 たし算と ひき算の ひっ算(2)					
目 標					指導時数・時期
○ 3位数の加減計算について、(3位数)±(2位数)の筆算を考えたり説明したりすることを通して、計算や十進位取り記数法の理解を深め、繰り上がりや繰り下がりのある筆算ができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					10時間 2学期制：9月上旬～9月下旬 3学期制：9月上旬～9月下旬
評 価					
(知)・繰り上がりや繰り下がりに気をつけて、正しく筆算で計算することができる。また、繰り上がりや繰り下がり の操作を通して、十進位取り記数法についての理解を深めることができる。 (思)・既習の2位数の筆算をもとにして、百の位に繰り上がるたし算とその逆のひき算や、簡単な場合の(3位数) ±(2位数)の筆算の仕方を考えている。 (態)・(2位数、3位数)±(2位数)の筆算に進んで関わり、ふり返りを通して筆算の仕方のよさ、答えの見当づけ や確かめの意義に気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	123	◆2年「たし算とひき算のひっ算(1)」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	102	◆導入で、54+38の筆算の仕方を確認する。 ◆半具体物の操作と筆算、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。 ◆問3の①や問4の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第4時で扱うことも可)	○答えが3桁になるたし算の筆算の仕方を考えていくという単元の課題をつかむ。 ○(2位数)+(2位数)で十の位に繰り上がりのある筆算ができる。	★数のまとまりに着目して、(何十)+(何)で繰り上がって100をこえる計算になる筆算をする学習の(次時の)計画を立てる。
①たし算		103			
	2	104	◆半具体物の操作と筆算、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。 ◆問7の①や問8の①⑤で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第4時で扱うことも可)	○(2位数)+(2位数)で一の位と十の位に繰り上がりのある筆算ができる。	★65+78の計算の仕方について、図と式、ことばを対応させて、計算の仕方を説明する。 ★p.128「もつとれんしゅう」の問24に進む。
	3	105	◆半具体物の操作と筆算、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。 ◆問2の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第4時で扱うことも可)	○3口のたし算を筆算形式に表し、計算することができる。	★考え方が複数ある事を見通して、それぞれの考え方を説明したり、受け取ったりする。 ★p.128「もつとれんしゅう」の問26に進む。
●れんしゅう	4	106		○学習内容を確実に身につける。	
②ひき算	5	107	◆半具体物の操作と筆算、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。 ◆問2の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第8時で扱うことも可)	○(百何十何)-(2位数)で百の位が繰り下がる筆算ができる。	★数のまとまりに着目して、(何百何十)-(2位数)で百の位が繰り下がる筆算をする学習の(次時の)計画を立てる。
	6	108	◆半具体物の操作と筆算、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。 ◆問5の①や問6の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第8時で扱うことも可)	○(百何十何)-(2位数)で繰り下がりが2回の筆算ができる。	★142-83の計算の仕方について、図と式、ことばを対応させて、計算の仕方を説明する。 ★p.129「もつとれんしゅう」の問28に進む。
	7	109	◆半具体物の操作と筆算、ことばを対応させて計算の仕方の理解をはかる。 ◆問9の①や問10の①で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、本時では省き、第8時で扱うことも可)	○(百何)-(2位数)で繰り下がりが2桁におよぶ筆算ができる。	★計算の仕方を、筋道立てて説明する。 ★p.129「もつとれんしゅう」問30に進む。
●れんしゅう	8	110		○学習内容を確実に身につける。	
③大きい数のひっ算	9	111	◆問2の①⑤で、計算の仕方を確認する。(その他の小問は、次時の冒頭で前時の確認問題として扱うことも可)	○(3位数)+(2位数)で、百の位に繰り上がらない筆算ができる。 ○(3位数)-(2位数)で、百の位から繰り下がらない筆算ができる。	
学びのまとめ	10	112～113	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。

思 見方・考え方をふかめよう「こんにちは さようなら」

目 標					指導時数・時期
○ 数量が増減する文章題の解決を通して、問題場面を図に表して数量の増減に着目して求め方を考えることができるようにし、また、式と計算についての理解を深めるとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。					3時間 2学期制：9月下旬 3学期制：9月下旬
評 価					
(知)・増減する数量に着目し、「まとめて考える」という考え方を理解することができる。 (思)・増減する数量に着目し、数図ブロックを操作したり、図に表したりして、まとめて考えている。 (態)・数量が増減する場面の問題解決に進んで関わり、ふり返りを通してまとめて考えることよき気づき、生活や学習に生かそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	114～115	◆場面絵を順序立てて提示し、増増のイメージを確認する。 ◆半具体物を操作して、まずは、順に考えさせる。	○増増の場面の問題を、順に考えて解く方法と、増える数に着目してまとめて考えて解く方法の2通りの考え方がわかる。	★2つの解決方法を考えさせる。 ★図と式、ことばを対応させて、計算の仕方を説明する。
	2	116	◆半具体物を操作して、まずは、順に考えさせる。解決後に、まとめる考え方で解決をはかる。	○減減の場面や増増の問題をオペレータに着目して、まとめて考える考え方で解くことができる。	★図と式、ことばを対応させて、計算の仕方を説明する。 ★問2では、はじめの数は示さずに、はじめよりどれだけ減ったかを問う。
	3	117	◆半具体物を操作して、まずは、順に考えさせる。解決後に、まとめる考え方で解決をはかる。	○増減の場面の問題を、オペレータに着目して差し引きいくら増えたことになるかを考えて解くことができる。	★図と式、ことばを対応させて、計算の仕方を説明する。 ★問4では、はじめの数は示さずに、はじめよりどれだけ増えたかを問う。

9 しきと 計算					
目 標					指導時数・時期
○ 式について、()の意味を理解し、()を使って1つの式に表すことができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					1時間 2学期制：10月上旬 3学期制：10月上旬
評 価					
(知)・加法の結合法則や()を使った式の計算順序を理解し、()を使った式の計算ができる。 (思)・増減する数量のまとまりに着目し、()を用いて1つの式に表している。 (態)・()を使った式に進んで関わり、ふり返りを通して()を使うと考え方や数量の関係を簡潔に1つの式に表せることに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	118～119	◆場面絵を順序立てて提示し、増増のイメージを確認する。 ◆まず、半具体物を操作して、2つの考え方のちがいを確認する。	○増増の場面をもとに、加法の結合法則が成り立つことに気づき、()を使った式の計算順序がわかる。	★p.129「もつとれんしゅう」の問32に進む。 ★2つの解決方法を考えさせる。

* ふくしゅう					
小単元	時	ページ	学習内容		
	1	120	○既習事項の確認と持続		

★ 学びの サポート	
ページ	学習内容
122～123	○じゅんぴ
124～129	○もつと れんしゅう
132～133	○学びをつなげよう

※巻末にある「学びのサポート」は少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。
すべての児童が一律に学習する必要はありません。

10 かけ算(1)

目 標		指 導 時 数 ◆ 時 期			
○ かけ算九九について、その意味や式について理解し、ブロックを操作する活動を通してかけ算になる場面をとらえて式にかいたり、かける数が1増えたときの積の増え方に着目して2~5の段の九九を構成したりすることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。		16 時間 2 学期制：10 月中旬~11 月上旬 3 学期制：10 月上旬~10 月下旬			
評 価					
(知) ・乗法の意味やその計算の仕方を理解し、2 から 5 の段までの九九を暗唱したり、乗法の適用場面を式に表して答えを求めたりすることができる。 (思) ・ブロック操作をもとに1つ分の大きさや積の増え方のきまりに着目し、九九を構成している。 (態) ・かけ算九九の構成に進んで関わり、ふり返りを通して累加の簡潔な表現としてかけ算の式にかくことや九九のよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	120	◆1年「おなじかずずつ」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	2~5	◆基準量となる数を確認し、その「いくつ分」という見方を、絵や図と関連させながら捉える。	○具体的な操作を通して、基準量の「いくつ分」という見方について理解する。 ○何個のいくつ分の表し方や計算の仕方について考えていくという単元の課題をつかむ。 ○基準量のいくつ分という見方を働かせて、かけ算の意味を理解し、式に表すことができる。	★数をまとまりで捉える見方に着目して、○このいくつ分のような数の表し方や計算する学習の(次時の)計画を立てる。
①いくつ分と かけ算	2	6~7			
	3	8~9	◆かけ算の用いられる場面を、半具体物を操作して表し、図を関連させて、式で表現する方法を確認する。	○かけ算の用いられる場面を式に表し、その答えを累加で求めることができる。 ○身のまわりから、かけ算の式に表せる場面をみつける。	★かけ算の式をみて、図で表現と言葉を関連させて説明する。
②何ばいと かけ算	4	10~11	◆問1では、「1つ分の数」が何かをはっきりと言わせる。	○基準量のいくつ分という見方もとに何倍の意味を理解し、かけ算の用いられる場面について理解を深める。	★p.122「もつとれんしゅう」の問2に進む。
③かけ算の九九	5	12~13	◆半具体物や図と絵、式を関連させて、乗数が1ずつ増えると答えが5ずつ増えることを確認する。	○乗数が1ずつ増えると答えが5ずつ増えることを使って、5の段の九九を構成することができる。	
	6・7	14	◆5の段の九九を掲示し、一斉に唱えたり、教科書を見ながら順序よく音読したりする。	○5の段の九九の唱え方を知り、九九のカードをつくるなどして九九を練習する。(第6時) ○5の段の九九を用いて、適用題を解く。(第7時)	★5のだんの九九になる問題をつくり、解きあう。
	8・9	15~16	◆2の段の九九を掲示し、一斉に唱えたり、教科書を見ながら順序よく音読したりする。	○2の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。(第8時) ○2の段の九九を用いて、適用題を解く。(第9時)	★2のだんの九九になる問題をつくり、解きあう。
	10・11	17~18	◆3の段の九九を掲示し、一斉に唱えたり、教科書を見ながら順序よく音読したりする。	○3の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。(第10時) ○3の段の九九を用いて、適用題を解く。(第11時)	★3のだんの九九になる問題をつくり、解きあう。
	12・13	19~20	◆4の段の九九を掲示し、一斉に唱えたり、教科書を見ながら順序よく音読したりする。	○4の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。(第12時) ○4の段の九九を用いて、適用題を解く。(第13時)	★4のだんの九九になる問題をつくり、解きあう。
	14	21	◆3×5と5×3を半具体物や図で示し、問題文や絵と比較して、1つ分の数を確認する。	○基準量が後に示された問題を、かけ算の式に表して九九を使って解決する。	★p.122「もつとれんしゅう」の問3に進む。
●れんしゅう	15	22		○学習内容を確実に身につける。	★問1のような問題づくりをする。(乗数→被乗数)
学びのまとめ	16	23	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★いろいろな唱え方(上から・下から・ランダム)で、九九のさらなる習熟を図る。

11 かけ算(2)

目 標					指導時数・時期
○ かけ算九九についての理解を深め、アレイ図を使った活動を通して6から9の段や1の段の九九を構成したり、かけ算を使って問題を解決したりすることができるようにするとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					13時間 2学期制：11月中旬～11月下旬 3学期制：11月上旬～11月下旬
評 価					
(知)・九九とその構成の仕方を深く理解し、6から9の段や1の段の九九を暗唱したり、乗法の適用場面を式に表して答えを求めたりすることができる。 (思)・かける数が1増えると積はかけられる数だけ増えることに着目し、九九を構成することができる。 (態)・かけ算九九の構成に進んで関わり、ふり返りを通して累加の簡潔な表現としてかけ算の式にかくことや九九のよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび (課題設定)	—	120	◆2年「かけ算(1)」	○既習事項の理解を確かめる。	
①九九づくり	1 ・ 2	24 25～26	◆アレイ図の使い方を確認し、かけ算が視覚的に捉えられるように確認する。 ◆6の段の九九を掲示し、一斉に唱えたり、教科書を見ながら順序よく音読したりする。	○アレイ図を使ってかけ算を構成していくという単元の課題をつかむ。(第1時) ○6の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。(第1時) ○6の段の九九を用いて、適用題を解く。(第2時)	★アレイ図を使ってかけ算を構成して、残りのかけ算九九を身に付けていくという単元の課題をつかみ、(次時の)計画を立てる。(第1時) ★6のだんの九九になる問題をつくり、解きあう。
	3 ・ 4	27～28	◆7の段の九九を掲示し、一斉に唱えたり、教科書を見ながら順序よく音読したりする。	○7の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。(第3時) ○7の段の九九を用いて、適用題を解く。(第4時)	★7のだんの九九になる問題をつくり、解きあう。
	5 ・ 6 ・ 7	29～31	◆8、9の段の九九を掲示し、一斉に唱えたり、教科書を見ながら順序よく音読したりする。	○これまでの学習をもとに8の段、9の段の九九を構成し、その唱え方を知り、練習する。(第5時) ○8の段の九九を用いて、適用題を解く。(第6時) ○9の段の九九を用いて、適用題を解く。(第7時)	★8のだん、9のだんの九九になる問題をつくり、解きあう。
	8	32	◆1の段の九九を掲示し、一斉に唱えたり、教科書を見ながら順序よく音読したりする。	○基準量が1のときのかげ算の意味を理解し、1の段の九九を構成する。	★1のだんの九九の式から問題づくりをする。
	9	33	◆問1では、「1つ分の数」が何かをはっきりと言わせる。	○問題づくりを通して、かけ算の理解を深める。	★1つの式から2通りの問題をつくる。(被乗数→乗数、乗数→被乗数)
●れんしゅう	10	34		○学習内容を確実に身につける。	★いろいろな唱え方(上から◆下から◆ランダム)で、九九のさらなる習熟を図る。
②かけ算をつかったもんだい	11	35		○乗法と加法、乗法と減法が組み合わされた3要素2段階の問題を解く。	★p.122「もつとれんしゅう」の問5に進む。
③図やしきをつかって	12	36～37		○同じ数のまとまりに着目して、L字型に並んだものの数をかけ算を使って求めることができる。	★p.123「もつとれんしゅう」の問6に進む。
学びのまとめ	13	38～39	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。

12 三角形と 四角形

目 標					指導時数・時期
○ 三角形や四角形について、観察を通してその分類や意味を理解し、構成要素を調べたり図形を構成したりすることを通して平面図形の性質やその見方・考え方をとらえさせるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					10時間 2学期制：12月上旬～12月中旬 3学期制：11月下旬～12月中旬
評 価					
(知)・三角形や四角形、及び、長方形、正方形、直角三角形の意味や性質を理解し、それらを弁別したり、点を直線でつないだり紙を折ったり方眼紙を使ったりして構成することができる。 (思)・直線の数や辺の長さや直角に着目して、三角形や四角形の特徴や性質をとらえたり、敷き詰め方を考えたりしている。 (態)・三角形や四角形の考察に進んで関わり、ふり返りを通して直線の数や辺の長さや直角に着目することのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび (課題設定)	—	120	◆1年「いろいろなかたち」	○既習事項の理解を確かめる。	
	1	40 41～42	◆点と点(中間の点を含む)をしっかりと直線で結ばせるようにする。 ◆定規の使い方を再確認する。	○動物を直線で囲む操作を通して、三角形と四角形の意味を知る。 ○三角形と四角形について調べていくという単元の課題をつかむ。	★問2では、三角形や四角形といえるわけを説明する。
①三角形と 四角形	2	43	◆図の辺を指でなぞって「辺」と唱えさせる。 ◆図の頂点を指で指して「頂点」と唱えさせる。	○三角形と四角形の弁別を行い、それらの構成要素について調べる。	★p.123「もつとれんしゅう」の問8に進む。

	3	44～45	◆補助線の入った図を用意し、三角形や四角形の紙を2つに切って三角形や四角形を確認できるようにする。	○三角形や四角形の紙を2つに切って三角形や四角形をつくり、三角形や四角形についての理解を深める。 ○身のまわりから、三角形や四角形の形をしたものをみつける。	★問4や問5で三角形や四角形であるわけを図や写真を示して説明する。
②長方形と正方形	4	46	◆問1では、かどの形をていねいにつくらせる。	○かどの形づくりを通して、直角の意味を知り、身のまわりから直角を見つける。	★問1では、かどの形の折り方から、直角は平角(一直線の角)の半分であることを気づく。
	5	47	◆問1では、長方形をていねいにつくらせて、4つのかどが直角になっていることをおさえる。	○紙を折ることによる長方形の形づくりを通して、長方形について理解する。	
	6	48～49	◆問1では、正方形をていねいにつくらせて、4つの辺が等しくなっていることをおさえる。	○長方形の紙を切ることによる正方形の形づくりを通して、正方形について理解する。	★p.123「もつとれんしゅう」の問10に進む。
	7	50	◆問1では、実際に長方形や正方形を対角線にあたる直線で半分に切る活動を行う。	○長方形や正方形の紙を斜めに切ることによる直角三角形の形づくりを通して、直角三角形について理解する。	★身のまわりから直角三角形をさがす。 ★同じ2つの直角三角形から正方形や長方形、三角形をつくる。
	8	51	◆問1では、長方形は向かいあう辺の長さが等しいこと、正方形は4つの辺の長さが等しいことをおさえてから、作図させる。 ◆方眼の頂点と頂点(中間の頂点を含む)や辺に沿うようにしっかりと直線で結ばせるようにする。	○方眼紙を使って、長方形、正方形、直角三角形を作図することができる。	
	9	52～53		○色紙を並べて長方形、正方形、直角三角形をつくり、その図形になるわけを説明することができる。 ○長方形、正方形、直角三角形を敷き詰めて、模様をつくり、いろいろな図形をみつけることができる。	★問3では、並べるときの規則性を意識して模様づくりに取り組む。
学びのまとめ	10	54～55	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。

思 見方・考え方を ふかめよう「かっても まけても！」

目 標			指導時数・時期		
○ 文章題において、問題場面を図に表して数量の違いに着目して解法を考えることを通して、違いに着目した考え方を活用して解くことができるようにするとともに、用いた図や見方・考え方を生活や学習に活用しようとする態度を養う。			2時間 2学期制：12月中旬 3学期制：12月中旬		
評 価					
(知)・数量の違いが示された場面について理解し、テープ図を2段に並べて数量の違いを表すことができる。					
(思)・逆思考を必要とする問題について、数量の違いを線分図(テープ図)に表して、一方の数量が多いということはその分だけ他方の数量が少ないというように考えている。					
(態)・2つの数量の違いが示された場面の問題解決に進んで関わり、ふり返りを通して数量の違いを線分図(テープ図)に整理して考えることよき気づき、生活や学習に生かそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	56～57	◆問1では、どちらの点数が多いかを確認してから、赤組と白組のテープ図を示し、わかっている数量をかくて考えさせる。	○2本のテープ図を使って2つの数量の違いに着目し、一方が多いことは他方が差の分だけ少ないと考えて、問題を解くことができる。	★問2では、自分の力で2本のテープ図をかくて考える。 ★似たような問題をつくり、解きあう。
	2	58～59	◆問3では、どちらのリボンが短いかを確認してから、赤いリボンと青いリボンのテープ図を示し、わかっている数量をかくて考えさせる。	○2本のテープ図を使って2つの数量の違いに着目し、一方が少ないことは、他方が差の分だけ多いと考えて、問題を解くことができる。	★自分の力で2本のテープ図をかくて考える。 ★似たような問題をつくり、解きあう。

活 どんな計算になるのかな

小単元	時	ページ	学習内容
●どんな計算になるのかな	1	60～61	○根拠にもとづいて、かけ算の演算決定をすることができる。

活 何番目

小単元	時	ページ	学習内容
●何番目	1	62～63	○いろいろな順序数の問題を、図にかいて考えることができる。

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	学習内容
	1	64～65	○既習事項の確認と持続

13 かけ算の きまり					
目 標			指導時数・時期		
○ かけ算九九について、九九の表の考察や九九の範囲をこえる乗法の計算の仕方を考えることを通して、乗法に関して成り立つ性質や九九の表のきまりを見いだしてかけ算の理解を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。			8時間 2学期制：1月中旬～1月下旬 3学期制：1月中旬～1月下旬		
評 価					
(知)・九九の表の見方や乗法に関して成り立つ性質を理解し、簡単な2位数と1位数のかけ算の答えを求めることができる。 (思)・九九の表からいろいろなきまりを見いだしたり、簡単な2位数と1位数のかけ算の仕方を考えたりすることができる。 (態)・九九の表の考察に進んで関わり、ふり返りを通してかけ算九九のきまりのよさに気づき、生活や学習に生かそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	120	◆2年「かけ算(1)」「かけ算(2)」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	67	◆1 から 9 までの九九の唱え方を確認してから、九九の表をつくらせる。	○九九の表を完成させ、九九のきまりについて調べるという単元の課題をつかむ。 ○九九の表の見方がわかる。	★九九の表を見て気づいたことを発表し合うことを通して、本単元の見通しをもち、学習の計画を立てる。
①かけ算の きまり	2	68		○九九の表を使って、乗数と積の関係について調べる。	
	3	69	・「ぜんぶの 数」に注目し、同じところはなにかと、観点を示す。	○九九の表を使って、乗法の交換法則について調べる。	★かけ算の交換法則が成り立つことを、●の図を使って説明する。
	4	70		○九九の表を使って、同じ答えがいくつあるかを調べる。	
	5	71		○九九の表を使って、2つの段の答えの和や差について調べる。	★かけ算の結合法則が成り立つことを、●の図を使って説明する。
②九九を広げて	6	72		○簡単な(1位数)×(2位数)について、乗数と積の関係を使って答えを求めることができる。	★p.124「もつとれんしゅう」の問11に進む。
	7	73		○簡単な(2位数)×(1位数)について、同数累加の考えや交換法則などを使って答えを求めることができる。	★複数の解決方法を考える。 ★p.124「もつとれんしゅう」の問12に進む。
学びの まとめ	8	74～75	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。

14 100cmを こえる 長さ					
目 標			指導時数・時期		
○ 100cmをこえる長さについて、新たな普遍単位の必要性を理解し、測定する活動を通して1m以上の長さのものを測ることや単位を適切に用いて表現することができるようにするとともに、量感を身につけて生活や学習に活用しようとする態度を養う。			6時間 2学期制：1月下旬～2月上旬 3学期制：1月下旬～2月上旬		
評 価					
(知)・長さの単位「m」について理解し、1mものさしを使って手際よく長さを測ったり、長さを「m」の単位を用いて表したりすることができる。 (思)・大きな長さの単位の必要性に気づき、量感をもとに長さを予想したり適切な単位を判断したりしている。 (態)・長さの測定や表し方の学習に進んで関わり、ふり返りを通して長さにあわせて適切な普遍単位を使うことや長さの量感を身につけておくことのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	121	◆2年「長さ」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	76 77	◆導入では、長さの単位には cm と mm があったことや、1cm と 1mm の大きさについて確認する。	○両手を広げた長さを測り、100 cm をこえる長さの別の表し方を調べるとい単元の課題をつかむ。	
	2	78		○長さの単位 m について知り、m 単位を使って長さを表すことができる。	★p.124「もつとれんしゅう」の問14に進む。
	3	79		○1m の長さをテープなどで作ったり身のまわりからみつけたりして、1m の量感を身につけることができる。	
	4	80		○1m の量感をもとにして、身のまわりの 1m をこえるものの長さを見当づけたり測ったりする。	
	5	81	◆図や式を示し、単位をそろえて計算することを確認する。	○簡単な場合の 1m をこえる長さの加減の計算ができる。	★p.124「もつとれんしゅう」の問16に進む。

学びのまとめ	6	82～83	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。
--------	---	-------	-------------------------------------	----------------	-----------------

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	学習内容
	1	84～85	○既習事項の確認と持続

15 1000をこえる数					
目 標				指導時数・時期	
○ 1000 をこえる数について、そのよみ方やかき方を理解し、100 や 1000 を単位として数をとらえたり順序や大小について考えたりすることを通して、十進法の理解や数の見方・考え方を深めるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				7 時間 2 学期制：2 月上旬～2 月中旬 3 学期制：2 月上旬～2 月中旬	
評 価					
(知) ・10000 までの数の表し方や仕組みを理解し、十進位取り記数法の仕組みをもとにして、10000 までの数を表したりよんだりすることができる。					
(思) ・10000 までの数について、1000 までの数と同じように、100 や 1000 などを単位としてそのいくつかとみて表現している。					
(態) ・10000 までの数に進んで関わり、ふり返りを通して十進位取り記数法のよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	121	◆2年「100をこえる数」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	86 87	◆問1では、100が10個で1000であることや、1000が2個で2000、1000が3個で3000、1000が4個で4000、…、1000が9個で9000ということを確認する。	○1000をこえる数の表し方や仕組みを調べていくという単元の課題をつかむ。 ○100のまとまりを10個集めて1000のまとまりをつくと数えやすいことに気づくとともに、1000をこえる数のよみ方を理解する。	
	2	88	◆問4から問6では、答えや問題の数字のよみ方を確認する。位取り板を用いてもよい。	○4位数について、十進位取り記数法にもとづいて、数字で表したり数の構成を説明したりすることができる。	★p.125「もつとれんしゅう」の問18に進む。
	3	89	◆問1では、まず、お金の模型を使って、100円玉10枚で1000円札1枚に両替できることをおさえる。	○100を単位として、そのいくつ分になるかを考え、数の相対的な大きさをとらえることができる。	★p.126「もつとれんしゅう」の問20に進む。
	4	90	◆問1では、1000、2000、3000、…、10000と、1000とびで数える練習をする。	○1000のまとまりをつくって数える操作を通して、10000という数の構成や数の系列をとらえることができる。	★p.126「もつとれんしゅう」の問21に進む。
	5	91	◆問4では、数直線を見ながら、100、200、300、…、10000と、100とびで数える練習をする。	○数直線の目盛りの大きさに着目し、10000までの数の系列や順序、大小関係について理解することができる。	★p.126「もつとれんしゅう」の問23に進む。
●れんしゅう	6	92		○学習内容を確実に身につける。	★身のまわりから1000をこえる数を見つけ、数の構成や相対的な大きさを考えたり、数の直線に表して大きさを比べたりする。
学びのまとめ	7	93～94	◆たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。

16 はこの形					
目 標				指導時数・時期	
○ 箱の形について、観察を通して構成要素を調べたり、図形を構成したりすることを通して立体図形の性質やその見方・考え方をとらえさせるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。				5 時間 2 学期制：2 月下旬 3 学期制：2 月下旬	
評 価					
(知) ・箱の形とその構成要素について理解し、工作用紙やひご、粘土玉を使って、箱の形やさいころの形をつくることことができる。					
(思) ・箱の形の構成要素に着目して特徴をとらえたり、面、辺、頂点の位置やつながり方に着目して箱の形つくり方を考えたりしている。					
(態) ・箱の形の考察に進んで関わり、ふり返りを通して面、辺、頂点の数や位置に着目することのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	121	◆1年「いろいろなかたち」 ◆2年「三角形と四角形」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	95		○いろいろな箱を観察して、箱の形	

①はこの形		96~97	◆問1の④では、面を写し取るときに落ちや重なりがないよう、印をつけるなどの工夫をさせる。	について調べていくという単元の課題をつかむ。 ○面の形を写し取り、箱の面について調べる。	
	2	98	◆問2の⑦や⑧では、辺や頂点を調べるときに落ちや重なりがないよう、印や色をつけるなどの工夫をさせる。	○箱の辺や頂点について調べる。	
②はこづくり	3	99	◆問1の⑦では、面を写し取るときに落ちや重なりがないよう、印をつけるなどの工夫をさせる。	○面をつないで箱を作ることを通して、面の位置関係についての理解を深める。	★問1の④では、面をどのようにつなぎあわせるかを説明する。 ★p.127「もつとれんしゅう」の問24に進む。
	4	100	◆問1では、第2時の学習をふり返らせながら取り組ませる。	○ひごと粘土玉を使って箱の形をつくることを通して、辺や頂点の位置関係の理解を深める。	★問2でも、実際に形をつくる。
学びのまとめ	5	101~102	◆「たしかめよう」の自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。	★「やってみよう」に取り組む。

17 分 数

目 標					指導時数・時期
○ 分数について、半分をつくる活動を通して $1/2$ の意味を理解し、 $1/2$ の半分やさらにその半分の大きさを調べたり、もとの大きさと分数で表された大きさの関係を考えたりすることを通して、簡単な場合の分数の意味を理解することができるとともに、生活や学習に活用しようとする態度を養う。					5 時間 2 学期制：3 月上旬 3 学期制：3 月上旬
評 価					
(知) ・具体的な操作を通して $1/2$ や $1/4$ 、 $1/3$ の大きさを理解し、その大きさをつくったり分数で表したりすることができる。					
(思) ・もとの大きさを基準として、その半分の大きさのつくり方を考えたり、つくった大きさを分数で表したりしている。					
(態) ・ $1/2$ や $1/4$ 、 $1/3$ の大きさに進んで関わり、ふり返りを通して何等分かした大きさを分数で表すことのよさに気づき、生活や学習にいかそうとしている。					
小単元	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
じゅんび	—	121	◆1年「おなじかずずつ」	○既習事項の理解を確かめる。	
(課題設定)	1	103		○半分の大きさをつくり、その表し方について調べていくという単元の課題をつかむ。	★問1では、半分のつくり方をいろいろ考える。
		104		○半分の大きさのつくり方を考えることができる。	
	2	105	◆もとの大きさが何で、その半分の大きさが何かをはっきりさせる。	○テープを折って半分の大きさをつくることを通して、 $1/2$ (二分の一) という表し方とその意味について理解する。	
	3	106	◆もとの大きさが何で、その半分の半分の大きさが何かをはっきりさせる。	○テープを折って半分の半分の大きさをつくることを通して、 $1/4$ (四分の一) という表し方とその意味について理解する。 ○ $1/8$ について知る。	
	4	107		○ $1/3$ について知り、 $1/3$ の大きさを図に表すことができる。	
	5	108~109	◆もとの大きさが何で、その $1/2$ や $1/3$ の大きさが何かをはっきりさせる。	○もとの大きさとその $1/2$ の大きさの関係を調べたり、もとの大きさが違うときの $1/2$ の大きさを比べたりする。	★●の図をみて、「12 この $1/2$ の大きさは 6 こ」とも「12 こは、6 この 2 ばい」ともとらえられることに気づく。

活 わくわくプログラミング

小単元	時	ページ	学習内容
	1	110~111	○ロケットを目的地まで動かすプログラムをつくる活動を通して、簡単なプログラミングの考え方を理解する。

活 よみとる算数

小単元	時	ページ	学習内容
	1	112~113	○日記から必要な情報をよみ取り、いろいろな問題を解決する。

* もう すぐ 3 年生 (2 年の ふく習)

小単元	時	ページ	学習内容
	1	114~115	○2年生の学習内容の確認と持続
	2	116~117	
	3	118	

★ 学びの サポート

ページ	学習内容
119～121	○じゅんぴ
122～127	○もっと れんしゅう
130～131	○算数しりょうしゅう

※巻末にある「学びのサポート」は、少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。
すべての児童が一律に学習する必要はありません。